

人生はニャンとかなるか？



浅田真央「ソチ五輪金」最大の障壁はキム・ヨナ

「謎の高得点」

十月のスケートアメリカ、十一月のNHK杯に続き、グランプリファイナルでも見事優勝した浅田真央（23）。これで来年二月からのソチ五輪の代表権はほぼ手中にした。

一方、最大のライバルであるキム・ヨナ（23）は、今年三月の世界選手権を最後に、右足の故障で今季は試合に出場できていなかった。ようやくグランプリファイナルと同時期のクワアチアでの国際大会で復帰すると、

熱狂的な韓国人ファンが詰めかけるなか、浅田とほぼ同じスコアで優勝した。特にSPでは、ジャンプの着地で手をついたのに、今季世界最高点をマーク。なぜ復

二度目の五輪での軍配は？

帰直後に、このような高得点が出るのか。

フィギュア解説者の渡部絵美氏はこう語る。「トリプルアクセルの次に点数の高いトリプルルッツを真央ちゃんは跳べない。これをキム・ヨナは得意にしており、さらにジャンプにスピードや高さがあるため、出来栄が良いとされ、

加点が大きくついている。この出来栄による加点について、スポーツ紙記者はこう言う。

「キム・ヨナは一〇年のバンクーバー五輪で二二・五六という驚異的なスコア

「ニャンとかなる」と猫のように気ままに生きられればいいが、そう簡単にいかまないのが、我らが浮世。五輪のメダル争いやマタレ戦争など先行きが、ニャンとも分からない。ものから、失脚した政府高官のように、ニャンともならない。話まで、全8本の人間ドラマ。

で金メダルを取りました

が、優勝したことはともかく、「いくらなんでも点数が高すぎるのではないか」と思ったフィギュアファンも多かった。

五輪に限らず、キム・ヨナは演技の構成点はそれほど高くないのに、出来栄の採点で一人だけ飛びぬけて加点され、高得点になっていることが多い。それだけ

に、あくまで事実関係は分かりませんが、ファンの間では「ジャッジを買収しているのでは」「国家ぐるみでのロビー活動の成果だ

などという声まで、ネット